

多かれ少なかれ、映画は過去の映像の引用から成り立つ。ジェームズ・キャメロン監督『タイタニック』(一九九七年)も例外ではない。タイタニックが沈むとき、食器棚の白い皿がいっせいに落ちる。これはタルコフスキー『サクリファイス』の引用だろう。『サクリファイス』は、核戦争による世界の終末を、食器棚に置かれたミルク瓶の落下だけで表す作品だ。また、海上に投げ出されたローズを映すカメラが次第に引かれ、あたり一面のおぼれる群衆を映しだすのは、『風と共に去りぬ』から来ているだろう。スカーレット・オハラが戦場に出ると、カメラが次第に引かれていき、一面に横たわる傷病兵の群れを映しだす。圧倒的なこのシーンを思い出すのは私だけではないだろう。

だが、『タイタニック』に最も影響を与えたのは、『未来少年コナン』(一九七八年)ほかの宮崎駿作品ではないか。親友と二人での未知への船出は、コナンとジムシーの船出を思わせるし、蒸気機関の描写は、『天空の城ラピュタ』(一九八六年)の古風な機械美に通じている。

何より『タイタニック』と『コナン』は、〈沈没と脱出の物語〉であり、『コナン』では大地さえ沈没するほどだ。下層の船室に閉じ込められたジャックは、「手錠」でつながれて脱出できない。ローズはジャックに「キス」をして戻り、水中を進んで「斧」を見つけ、「手錠」を断ち切ってジャックを救う。『コナン』はどうか。海上のコナンを助けようと、ラナは「斧」を振るってボートを降ろす。だが、ボートは撃沈され、沈む船に「手錠」でつながれてしまったコナンを、ラナは水中に潜って空気を「キス」で口うつしして救おうとする。発想の類似性は明らかだ。『タイタニック』では、一等船客と三等船客を隔てるシャッターが人々の脱出を妨げるが、『コナン』でも、一等市民と地下住人を隔てる三角塔のシャッターが群衆の脱出を妨げる。ローズとラナが、戦う意志的な女性であるのも共通点だ。

有名なタイタニックポーズの原型といえるものも、『未来少年コナン』に登場する。コナンを救うため、鳥の飛翔の力を借りてラナは船首で腕を広げる。ローズの持つダイヤモンドが青いのは、それが『ラピュタ』の青い飛行石だからではないか。恋敵キルはダイヤをローズに与え、「僕らは王族なんだよ」とささやくが、これは飛行石を示すムスカが「君はリュシータ王女だ」とラナに告げるセリフに通じている。ローズが海に沈まないのは、彼女のダイヤが青い飛行石だったから、とも言えるのである。